

**【各教科等を合わせた指導の特徴と留意点】 新旧対照表**

現行学習指導要領解説 (H21)	新学習指導要領解説 (H29)
<p><b>① 日常生活の指導</b></p> <p>日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものである。</p> <p>日常生活の指導は、生活科の内容だけでなく、広範囲に、各教科等の内容が扱われる。それらは、例えば 衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔など基本的生活習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ることなどの日常生活や社会生活において必要で基本的な内容である。</p> <p>日常生活の指導に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。</p> <p>(ア) 日常生活の自然な流れに沿い、その活動を実際的で必然性のある状況下で行うものであること。</p> <p>(イ) 毎日反復して行い、望ましい生活習慣の形成を図るものであり、繰り返しながら、発展的に取り扱うようにすること。</p> <p>(ウ) できつつあることや意欲的な面を考慮し、適切な援助を行うとともに、目標を達成していくために、段階的な指導ができるものであること。</p> <p>(エ) 指導場面や集団の大きさなど、活動の特徴を踏まえ、個々の実態に即した効果的な指導ができるよう計画されていること。</p>	<p><b>ア 日常生活の指導</b></p> <p>日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動について、<u>知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を踏まえながら計画的に指導するものである。</u></p> <p>日常生活の指導は、<u>生活科を中心として、特別活動の〔学級活動〕など広範囲に、各教科等の内容が扱われる。</u>それらは、例えば、衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔など基本的生活習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ることなどの日常生活や社会生活において、<u>習慣的に繰り返される、必要で基本的な内容である。</u></p> <p>日常生活の指導に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。</p> <p>(ア) 日常生活や学習の自然な流れに沿い、その活動を実際的で必然性のある状況下で<u>取り組むことにより、生活や学習の文脈に即した学習ができるようにすること。</u></p> <p>(イ) 毎日反復して行い、望ましい生活習慣の形成を図るものであり、<u>繰り返しながら取り組むことにより習慣化していく指導の段階を経て、発展的な内容を取り扱うようにすること。</u></p> <p>(ウ) できつつあることや意欲的な面を考慮し、適切な<u>支援</u>を行うとともに、<u>生活上の目標を達成していくために、学習状況等に応じて課題を細分化して段階的な指導ができるものであること。</u></p> <p>(エ) 指導場面や集団の大きさなど、活動の特徴を踏まえ、個々の実態に即した効果的な指導ができるよう計画されていること。</p> <p><u>(オ) 学校と家庭等とが連携を図り、児童生徒が学校で取り組んでいること、また家庭等でこれまで取り組んできたことなどの双方向で学習状況等を共有し、指導の充実を図るようにすること。</u></p>

現行学習指導要領解説 (H21)	新学習指導要領解説 (H29)
<p><b>② 遊びの指導</b></p> <p>遊びの指導は、遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動をはぐくみ、心身の発達を促していくものである。</p> <p>遊びの指導では、生活科の内容をはじめ、各教科等にかかわる広範囲の内容が扱われ、場や遊具等が限定されることなく、児童が比較的自由に組み込むものから、期間や時間設定、題材や集団構成などに一定の条件を設定し活動するといった比較的制約性が高い遊びまで連続的に設定される。</p> <p>また、遊びの指導の成果が各教科別の指導等につながることもある。</p> <p>遊びの指導に当たっては、次のような点を考慮することが重要である。</p> <p>(ア) 児童が、積極的に遊ぼうとする環境を設定すること。</p> <p>(イ) 教師と児童、児童同士のかかわりを促すことができるよう、場の設定、教師の対応、遊具等を工夫すること。</p> <p>(ウ) 身体活動が活発に展開できる遊びを多く取り入れるようにすること。</p> <p>(エ) 遊びをできる限り制限することなく、児童の健康面や衛生面に配慮しつつ、安全に選べる場や遊具を設定すること。</p> <p>(オ) 自ら遊びに取り組むことが難しい児童には、遊びを促したり、遊びに誘ったりして、いろいろな遊びが経験できるよう配慮して、遊びの楽しさを味わえるようにしていくこと。</p>	<p><b>イ 遊びの指導</b></p> <p>遊びの指導は、<u>主に小学部段階において、遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動を育み、心身の発達を促していくものである。</u></p> <p><u>特に小学部の就学直後をはじめとする低学年においては、幼稚部等における学習との関連性や発展性を考慮する上でも効果的な指導の形態となる場合がみられ、義務教育段階を円滑にスタートさせる上でも計画的に位置付ける工夫が考えられる。</u></p> <p>遊びの指導では、生活科の内容をはじめ、<u>体育科など各教科等に関わる広範囲の内容が扱われ、場や遊具等が限定されることなく、児童が比較的自由に組み込むものから、期間や時間設定、題材や集団構成などに一定の条件を設定し活動するといった比較的制約性が高い遊びまで連続的に設定される。</u></p> <p>また、<u>遊びの指導の成果を各教科別の指導につながるようにすることや、諸活動に向き合う意欲、学習面、生活面の基盤となるよう、計画的な指導を行うことが大切である。</u></p> <p>(ア) <u>児童の意欲的な活動を育めるようにすること。その際、児童が、主体的に遊ぼうとする環境を設定すること。</u></p> <p>(イ) 教師と児童、児童同士の<u>関わり</u>を促すことができるよう、場の設定、教師の対応、遊具等を工夫し、<u>計画的に実施すること。</u></p> <p>(ウ) <u>身体活動が活発に展開できる遊びや室内での遊びなど児童の興味や関心に合わせて適切に環境を設定すること。</u></p> <p>(エ) 遊びをできる限り制限することなく、児童の健康面や衛生面に配慮しつつ、安全に遊べる場や遊具を設定すること。</p> <p>(オ) 自ら遊びに取り組むことが難しい児童には、遊びを促したり、遊びに誘ったりして、いろいろな遊びが経験できるよう配慮し、遊びの楽しさを味わえるようにしていくこと。</p>

現行学習指導要領解説 (H21)	新学習指導要領解説 (H29)
<p><b>③ 生活単元学習</b></p> <p>生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。</p> <p>生活単元学習では、広範囲に各教科等の内容が扱われる。</p> <p>生活単元学習の指導では、児童生徒の学習活動は、生活的な目標や課題に沿って組織されることが大切である。</p> <p>また、小学部において、児童の知的障害の状態等に応じ、遊びを取り入れた生活単元学習を展開している学校もある。</p> <p>生活単元学習の指導計画の作成に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。</p> <p>(ア) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。</p> <p>(イ) 単元は 必要な知識・技能の獲得とともに生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるものであること。</p> <p>(ウ) 単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動をも含んだものであること。</p> <p>(エ) 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に共同して取り組めるものであること。</p> <p>(オ) 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。</p>	<p><b>ウ 生活単元学習</b></p> <p>生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、<u>自立や社会参加のために必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。</u></p> <p>生活単元学習では、広範囲に各教科等の<u>目標や内容</u>が扱われる。</p> <p>生活単元学習の指導では、児童生徒の学習活動は、実際の生活上の目標や課題に沿って指導目標や指導内容を組織されることが大切である。</p> <p>また、小学部において、児童の知的障害の状態等に応じ、遊びを取り入れ<u>たり、作業的な指導内容を取り入れたりして、生活単元学習を展開している学校がある。どちらの場合でも、個々の児童生徒の自立と社会参加を視野に入れ、個別の指導計画に基づき、計画・実施することが大切である。</u></p> <p>生活単元学習の指導計画の作成に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。</p> <p>(ア) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態や<u>生活年齢等及び興味や関心を踏まえたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。</u></p> <p>(イ) 単元は、必要な知識や技能の<u>習得</u>とともに、<u>思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の育成を図るものであり、生活上の望ましい態度や習慣が形成され、身に付けた指導内容が現在や将来の生活に生かされるようにすること。</u></p> <p>(ウ) 単元は、児童生徒が<u>指導目標への意識や期待をもち、見通しをもって、単元の活動に意欲的に取り組むものであり、目標意識や課題意識、課題の解決への意欲等を育む活動をも含んだものであること。</u></p> <p>(エ) 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、<u>学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるものであること。</u></p> <p>(オ) 単元は、各単元における児童生徒の<u>指導目標を達成するための課題の解決に必要なかつ十分な活動</u>で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。</p>

(カ) 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるよう計画されていること。

生活単元学習の指導を計画するに当たっては、1つの単元が、2、3日で終わる場合もあれば、1学期間、あるいは、1年間続く場合もあるため、年間における単元の配置、各単元の構成や展開について十分検討する必要がある。

(カ) 単元は、各教科等に係る見方・考え方を生かしたり、働かせたりすることのできる内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な意義のある経験ができるよう計画されていること。

生活単元学習の指導を計画するに当たっては、1つの単元が、2、3日で終わる場合もあれば、1学期間など長期にわたる場合もあるため、年間における単元の配置、各単元の構成や展開について組織的・体系的に検討し、評価・改善する必要がある。

現行学習指導要領解説 (H21)	新学習指導要領解説 (H29)
<p><b>④ 作業学習</b></p> <p>作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。</p> <p>作業学習の指導は、単に職業・家庭科の内容だけでなく、各教科等の広範囲の内容が扱われる。</p> <p>作業学習で取り扱われる作業活動の種類は、農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、窯業、セメント加工、印刷、調理、食品加工、クリーニングなどのほか、販売、清掃、接客なども含み多種多様である。</p> <p>作業学習の指導に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。</p> <p>(ア) 生徒にとって教育的価値の高い作業活動等を含み、それらの活動に取り組む喜びや完成の達成感が味わえること。</p> <p>(イ) 地域性に立脚した特色をもつとともに、原料・材料が入手しやすく、持続性のある作業種を選定すること。</p> <p>(ウ) 生徒の実態に応じた段階的な指導ができるものであること。</p>	<p><b>エ 作業学習</b></p> <p>作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。</p> <p><u>とりわけ、作業学習の成果を直接、児童生徒の将来の進路等に直結させることよりも、児童生徒の働く意欲を培いながら、将来の職業生活や社会自立に向けて基盤となる資質・能力を育むことができるようにしていくことが重要である。</u></p> <p>作業学習の指導は、<u>中学部では職業・家庭科の目標及び内容が中心となるほか、高等部では職業科、家庭科及び情報科の目標及び内容や、主として専門学科において開設される各教科の目標及び内容を中心とした学習へとつながるものである。なお、小学部の段階では、生活科の目標及び内容を中心として作業学習を行うことも考えられるが、児童の生活年齢や発達の段階等を踏まえれば、学習に意欲的に取り組むことや、集団への参加が円滑にできるようにしていくことが重要となることから、生活単元学習の中で、道具の準備や後片付け、必要な道具の使い方など、作業学習につながる基礎的な内容を含みながら単元を構成することが効果的である。</u></p> <p>作業学習で取り扱われる作業活動の種類は、農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、窯業、セメント加工、印刷、調理、食品加工、クリーニングなどのほか、<u>事務、販売、清掃、接客なども含み多種多様である。作業活動の種類は、生徒が自立と社会参加を果たしていく社会の動向なども踏まえ、地域や産業界との連携を図りながら、学校として検討していくことが大切である。</u></p> <p>作業学習の指導に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。</p> <p>(ア) <u>児童生徒にとって教育的価値の高い作業活動等を含み、それらの活動に取り組む意義や価値に触れ、喜びや完成の達成感が味わえること。</u></p> <p>(イ) 地域性に立脚した特色をもつとともに、<u>社会の変化やニーズ等にも対応した持続性や教育的価値のある作業種を選定すること。</u></p> <p>(ウ) <u>個々の児童生徒の実態に応じた教育的ニーズを分析した上で、段階的な指導ができるものであること。</u></p>

<p>(エ) 知的障害の状態等が多様な生徒が、共同で取り組める作業活動を含んでいること。</p> <p>(オ) 作業内容や作業場所が安全で衛生的、健康的であり、作業量や作業の形態、実習期間などに適切な配慮がなされていること。</p> <p>(カ) 作業製品等の利用価値が高く、生産から消費への流れが理解されやすいものであること。</p> <p>中学部の職業・家庭科に示す「産業現場等における実習」（一般に「現場実習」や「職場実習」とも呼ばれている。）を、他の教科等と合わせて実施する場合は、作業学習として位置付けられる。その場合、「産業現場等における実習」については、現実的な条件下で、生徒の職業適性等を明らかにし、職業生活ないしは社会生活への適応性を養うことを意図して実施するとともに、各教科等の広範な内容が包含されていることに留意する必要がある。</p> <p>「産業現場等における実習」は、これまでも企業等の協力により実施され、大きな成果が見られるが、実施に当たっては、保護者、事業所及び公共職業安定所などの関係機関等との密接な連携を図り、綿密な計画を立てることが大切である。また、実習中の巡回指導についても適切に計画する必要がある。</p>	<p>(エ) 知的障害の状態等が多様な<u>児童生徒が、相互の役割等を意識しながら協働して</u>取り組める作業活動を含んでいること。</p> <p>(オ) 作業内容や作業場所が安全で衛生的、健康的であり、作業量や作業の形態、<u>実習時間及び期間</u>などに適切な配慮がなされていること。</p> <p>(カ) 作業製品等の利用価値が高く、生産から消費への<u>流れと社会的貢献など</u>が理解されやすいものであること。</p> <p>中学部の職業・家庭科に示す「産業現場等における実習」（一般に「現場実習」や「職場実習」とも呼ばれている。）を、他の教科等と合わせて実施する場合は、作業学習として位置付けられる。その場合、「産業現場等における実習」については、現実的な条件下で、生徒の職業適性等を明らかにし、職業生活ないしは社会生活への適応性を養うことを意図するとともに、<u>働くことに関心をもつことや、働くことの良さに気付くことなど、将来の職業生活を見据えて基盤となる力を伸長できるように実施していくことに留意したい。更に、各教科等の目標や広範な内容が包含されていることに留意する必要がある。</u></p> <p>「産業現場等における実習」は、これまでも企業等の協力により実施され、大きな成果が見られるが、実施に当たっては、保護者、事業所及び公共職業安定所（ハローワーク）などの関係機関等との密接な連携を図り、綿密な計画を立て、<u>評価・改善することが大切である。また、実習中の巡回指導についても適切に計画し、生徒の状況を把握するなど柔軟に対応する必要がある。</u></p>
--	---